メールニュース　2026年　5月17日付　NO.26137

イラン情勢関連記事
安全輸送には、政府による管理体制の確立が不可欠
大型タンカー（VLCC）による国家備蓄石油輸送始まる

2月末に始まったアメリカ・イスラエルとイランとの戦争により、ホルムズ海峡が事実上封鎖されており、わが国が原油輸入の90％以上を依存している中東地域からの原油供給が途絶えてから1カ月以上が経過している。

このため、政府は3月26日から国家備蓄石油（民間備蓄は3月16日～）を放出し、当面の国内石油需要を賄っている。平時の国内石油輸送には、199～4000総トンの内航タンカーを主流に、最大で載貨重量トン数（DWT）80000～120000トンのアフラマックス型3隻が従事しているが、今般の国家備蓄を加えた石油輸送量は、内航タンカーの輸送量能力をはるかに超えていることから、政府は特例的に外航船の国内輸送を許可し、VLCCなどの巨大な外航タンカーによる国家備蓄石油の国内輸送を実施することで、国内で必要とされる石油輸送量の不足分を補っている。

これに先立ち、本組合に対し、国土交通省海事局より外航船舶による国内備蓄原油輸送の実施について説明を受けた。これに対しては、ホルムズ海峡が実質的に封鎖されている状況から、石油の国内需要を満たすため、緊急的に外航船舶を活用せざるを得ないことへの理解を示しつつ、最重要課題として安全面への対応を挙げ、国内就航に不慣れな船員、特に日本語を使えない外国人船員による備蓄基地での荷役作業などに関し、安全管理の重要性と安全確保の徹底を要請した。

加えて、その他の国内海上輸送に関わる懸念事項として、カボタージュ規制など関係法令に抵触する問題があるため、今回の緊急事態に関わる国家備蓄の輸送に限定した扱いとする様求めた。

その後、3月23日に国土交通省海事局より、国内における安定的な原油供給を確保することを目的とした備蓄原油輸送に関する「海外貸渡し方式による外航原油輸送船における緊急国内輸送に関する取扱いについて」が通知され要件が示された。また、FOC船には、日本籍船と同様の目的を果たすための大臣特許により今回の国家備蓄石油輸送に限定した国内就航が認められることとなった。

本組合は、各船の安全運航・安全荷役に資するよう、引き続き関係船社ならびに関係各所に対し、必要とされる取り組みを続けていく。

「海員だより」